2Ea-8

高齢者のおしゃれ意識と規範意識について

○西藤栄子*　　中川早苗**
(*華頂短大（非）　**奈良女大)

【目的】色、柄、デザインが豊富で、しかも価格の手ごろな若者の衣服に比べて、高齢者の衣服は、それらに乏しく、価格も高いなど、不満の多いことが既報によって多く報告されている。しかし経済的にも時間的にも余裕のできた高齢者は、趣味やレジャーなどに積極的に参加するなど、ライフスタイルの変化に伴い、服装に対する意識も多様化しつつあると考えられる。そこで本研究では、高齢女性を対象として、おしゃれ意識と規範意識について、質問紙による調査によって検証し、その相互の関連を明らかにすることを目的とする。

【方法】おしゃれ意識、規範意識と、これに服装観を加えた質問紙を作成して、近畿圏の高齢女性269名を対象として、配票留置法による調査を行った。 作成した質問項目について、4段階で評定を求め、その評定結果をもとに、クロス集計・分散分析などの手法を用いて、その相互の関連を検討した。調査の実施時期は1995年12月である。

【結果】高齢者のおしゃれ意識と規範意識はともに高く、おしゃれ意識は年齢や、余暇活動などの外出の頻度などによって、その度合いに差のあることがわかった。一方の規範意識はいかなる場合も高いが、特に年齢が高くなるにしたがい高くなることがわかった。その相互の関連を検討してみると、意識レベルではおしゃれ意識も規範意識もどちらも高いが、行動レベルではおしゃれ意識よりも規範意識の高い人が多いことがわかった。服装観については、年齢に関係なく機能性とともに「自分らしさの表現」を重視しているおり、おしゃれに対する意識と行動にはズレのあることが明らかになった。